

# 馬も食べない小さな鈴 アセビ

学名：*Pieris japonica* D.Don 科名：ツツジ科



アセビはツツジ科アセビ属に分類される植物です。アセボ、ウマクワズと言われることもあります。花期である3〜4月には、白い壺状の5〜6mm程の花が下向きに咲きます。果実是对照的に上向きに付きます。

庭先や公園で見かけることがあります。アセビは有毒植物です。葉や、花にはアセボトキシン、グラヤノトキシン等の有毒な成分が含まれています。馬や牛が誤ってアセビを食べると麻痺してしまい、その様子が酔ったように見えることから、和名は馬酔木（バスイボク）と付けられています。

生薬名も同じく馬酔木（バスイボク）です。薬用部位は葉で、有毒植物のため人体には使用せず、牛や馬などの皮膚の寄生虫の駆除や、害虫駆除剤に使用されていました。

人が誤って食べてしまうと、激しい腹痛や下痢、吐き気を引き起こし、重度になると痙攣、麻痺が引き起こされてしまいます。花はかわいらしく、園芸種などもあるので、観賞用に向いていますでしょう。

生薬名	馬酔木（バスイボク）
薬用部位	葉
薬効	駆虫作用
用途	馬や牛の害虫駆除の目的として用いる。

## サンシュユ

学名： *Cornus officinalis* Siebold et Zuccarini 科名：ミズキ科



公園や家庭の庭に植えられていることが多いサンシュユは中国、朝鮮半島原産の落葉性の小高木です。高さは約4mに達し、幹の外側の薄い皮が剥がれていくという特徴があります。4月、葉が出る前に小さな黄色の花が20〜30輪くらい集まって、枝の先端に可憐に咲きます。花が終わると、葉が出てきます。葉は楕円形で、長さは約4〜10cmです。秋にはグミのような赤い果実が増えます。味はグミのように甘くなく、渋みと酸味があります。

10〜11月に赤く熟した果実を採集し、種子を除き、乾燥させた生薬は「山茱萸」と呼ばれています。薬用として利用され、疲労回復、腰痛、膝痛、頻尿などに効果があります。漢方薬の八味地黄丸、牛車腎気丸などに配合され、夜間頻尿や腰痛、しびれに使用されます。

また、サンシュユは果実酒としても利用できます。軽く乾燥させた果実をお酒に漬けた果実酒は、老人や病後の滋養強壯、腰痛、めまいなどに効くと言われています。



生薬名	山茱萸 (サンシュユ)	局方生薬
薬用部位	果実	
薬効	滋養、強壯作用	
用途	疲労回復、腰痛、膝痛、頻尿に用いられる。 八味地黄丸(ハチミジオウガン)、 牛車腎気丸(ゴシャジンキガン)など	



## アミガサユリ

学名：*Fritillaria verticillata* Willdenow var. *thunbergii* Baker 科名：ユリ科



「立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花」

美しい女性を花に例えて形容する言葉がありますね。同じユリ科のアミガサユリも、百合に負けず劣らずに品のある姿をしています。

アミガサユリの花言葉は「謙虚な心」、「凜とした姿」です。白く可憐で、品のある花を咲かせる姿から、このような花言葉を連想したのかもしれませんが。

花の中を覗いてみると、黒い網のような模様が見られます。その中の模様が編み笠のように見えることから、「アミガサユリ」と名付けられたと言われています。

アミガサユリは中国原産の多年草です。開花時期は3〜4月です。日本では主に切り花や観賞用として栽培されています。草丈は約30〜60cmです。直立した茎に、少し厚めの白い花を3つほど咲かせるのが特徴です。

漢方ではアミガサユリの鱗茎を利用します。貝母（バイモ）という生薬名で、2〜3cmほどの分厚い2個の鱗片葉からなり、漢字が「貝母」になったと言われています。去痰、鎮咳などを目的とする漢方薬に配剤されます。

生薬名	貝母（バイモ）	局方生薬
薬用部位	鱗茎	
薬効	鎮咳、去痰作用	
用途	去痰、鎮咳、炎症などに用いられる漢方薬に配合 清肺湯（セイハイトウ） 滋陰至宝湯（ジインシホウトウ）	



## ミツガシワ

学名： *Menyanthes trifoliata* L. 科名：ミツガシワ科



胃もたれや腹痛に悩まされている方もいらっしやるのではないでしょうか。ミツガシワはこのような胃もたれや腹痛のある方に味方の植物です。

柏の葉に似た3枚の小葉を持つことからミツガシワの名が付いたと言われています。北半球の温帯から亜寒帯域に広く分布し、日本では北日本などの寒冷地の池や湖によく見られる、水生の多年草です。しかし、日本では温暖な地域でも群落が見られ、これは氷河期に分布したものの生き残りだと言われています。花は白く、5枚の花弁を持ち、写真のように白く密集した細毛を付けます。

葉または全草を乾燥させたものを生薬として用い、生薬名は「睡菜（スイサイ）」と言います。睡菜という生薬名は、葉を食べることで眠気を催すこと由来し、中国の古書である「本草綱目」には、眠れないときに用いると良いという記載があります。また、苦味配糖体を含むため、民間療法で苦味健胃薬として胃もたれや腹痛に用いられてきました。また、根茎も薬用として用いられ、乾燥させたものを咳止め、高血圧などに煎じて用いることもあります。

生薬名 睡菜（スイサイ）

薬用部位 葉または全草

薬効 苦味健胃、瀉下、鎮静作用

用途 胃もたれや腹痛に用いる。